令和７年度 第2回藤沢市市民活動推進委員会 議事概要

１ 日　　時

２０２５年（令和７年）５月１９日（月）午前１０時

２ 場　　所

オンライン（Zoom）

３ 出 席 者

（１）委　員　１１人

山岡委員長、坂井副委員長、大高委員、大場委員、鍛地委員、永山委員、新實委員、西村委員、笛木委員、水戸委員、森田委員

（２）事務局　６人

木村参事、黒澤主幹、二宮課長補佐、緒方上級主査、伊佐治専任主査、土倉職員

（３）その他

傍聴者　２人

４ 議 題 等

（１）令和６年度藤沢市市民活動支援施設の事業報告について

（２）令和６年度ミライカナエル活動サポート事業報告について

（３）令和７年度ミライカナエル活動サポート事業について

（４）藤沢市市民活動推進計画改定の方向性について

（５）その他

５ 概　　要

〇開会

〇委員長が開会を発声。事務局より、委員会成立の報告が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題（１）令和６年度藤沢市市民活動支援施設の事業報告について

〇市民活動推進センター センター長から、令和６年度藤沢市市民活動支援施設の事業報告について説明が行われた。

〇委員から（発言要旨）

（委員）昨年からアニュアルレポートが作成されており、多くの人に見てもらいた

い。アニュアルレポートの配布方法や周知方法について知りたい。
（市民活動推進センター）アニュアルレポートは各市民センターなどで配布され、欲しいと希望する方にも配布予定。さらに、Web 上にも掲載する予定。
（委員）紙媒体の配布は限られているため、Web 上にアップロードされた報告書を活用して、学校など、もっといろいろなところにお知らせしてあげるといい。
（委員）資料の外国人スピーチの部分について、外国籍に関わる表現が違和感を持つと指摘された。戸籍に関わりなく、文化的背景や育てられた環境、外国に繋がる方とかの表現をする方がいい。
（市民活動推進センター）このアニュアルレポートはまだ案の段階。最終版を作っていくので、いただいた意見を持ち帰る。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題（２）令和６年度ミライカナエル活動サポート事業の報告について

〇事務局から、令和６年度ミライカナエル活動サポート事業の報告について説明が行われた。

〇委員から（発言要旨）

（委員）補助金の返還事例が少ないことについて、各団体からの申し出か自治推進課からの要請によるものか知りたい。
（事務局）補助金の返還は、昨年度も、スタート支援コースの団体であったのだが、事業終了後の収支確認の際に、使われなかった分や予定よりも多く収入があった場合に補助金を返還する形で行われている。今年度の団体では支出が予定より少なかった団体があったため、補助金の返還があった。
（委員）適切に処理しているとうことでよいとは思うが、補助金を返還している団体がある。このことについて、適切な処理はされているが、返還額が大きいため、予算立ての重要性を強調し、今後の申請において特にスタート時の予算設定に留意する必要がある。過去に半額以上を返還した事例もあることを伝えて、団体に適切な予算立てを促す必要がある。
（事務局）団体の収支計画について、募集説明会で説明しているが、また説明会がある際には、実際の状況に即した収支予測を立て、予算設定からのズレを最小限に抑えるよう説明する。
（委員）Will CONNECT さんの採択取り消しの理由をもう一度教えていただきたい。
（事務局）Will CONNECT の採択取り消しは、事業予定の空き家物件で契約関係を整理できず、事業実施が適切な形にならなかったということ。
（委員）契約できなかった理由は不測だったのか、元々リスクがあったものか。
（事務局）契約ができなかった事情については、中間報告会のときにも説明があったが、元々予定していた空き家物件が変更になったため、急遽不測があった。

（委員）現状はどういう状況か。
（事務局）団体は、現在作業中の物件での事業を継続したいと考えており、そこの整理をしているところと聞いている。
（委員）進捗が何かまた連絡をもらえるのか。
（事務局）ミライカナエル活動サポート事業は既に取り消されたため、団体からの報告を受けて委員会に説明することは現時点では考えていない。
（委員）最初のプレゼンテーション時には、場所の確定が懸念事項であったが、その点が担保されているとの理由で採択された経緯がある。ただ、スタート支援コースなのでそういうこともあると思うが、きちんとした見通しをもって申請することを、より強調する必要がある。
（委員）Will CONNECT さんは補助金はどうなったのか。
（事務局）未交付の状態であった。
（委員）採択取り消しは重大な事案であるため、その経緯や理由を書面で書く必要があると考えており、今後はそういった対応をしてほしい。
（事務局）今後、取消などがあった際には委員会の報告できるよう今後検討させていただく。
（委員）返金額が書いていないが、何か意図があるのか。
（事務局）特に返還金額を示さない意図はなく、報告書では決算状況を確認した内容を示す形で作成している。
（委員）そうすると、トータル的なところがわからない。
（事務局）提供いただいたご意見を検討し、今後は申請金額、補助金額、決算金額を並べて示すことを検討する。
（委員）収支決算書を確認したところ、Cocochie さんが印刷費を抑えたと説明されたが、実際には予算通りの金額がかかっている。抑えられたという説明が分からない。
（事務局）記載されている金額は、補助金の返還時に事業計画を変更し、その変更金額と決算状況を合わせて報告しているため、最初の申請金額と収支予算とのずれが生じている。ここに書いてあるのは変更後の収支予算書の金額になる。
（委員）そこはわからないとまずい。変更があったことも含め、報告書は公表されるのか。
（事務局）報告書のままの形ではなく、ホームページなどの方には概略版としてまとめたものが掲載される。少なくとも委員会の報告資料としては、元々の申請金額も示す形で今後は作成する。
（委員）申請、そこからの変更があってこうなったと分かるようにしてほしい。
（委員）成果報告会がないため、コメントがあれば事務局に提出していただけるとありがたい。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題（３）令和７年度ミライカナエル活動サポート事業について

〇事務局から、令和７年度ミライカナエル活動サポート事業について説明が行われた。

〇委員から（発言要旨）

（委員）確認だが、Book と食と学びの団体は前年度にも申請して採択されなかったと思われるが、再度チャレンジという意味でよいのか。

（事務局）団体は再度申請したいと申し出があり、再チャレンジになるが、申請内容は前年度と同じではないので、内容をご覧いただきたい。

（委員）去年、申請書には定量的な情報や成果の見込みなどが織り込んでももらえると助かると話をした。今回各団体が提出する書類にはそのような情報が含まれていると思えばよいか。

（事務局）説明会や申請書の見本で、定量的な数値を含めて具体的に記入する形にしており、審査評価のポイントとしても、定量的な指標の有無が審査項目にあるので、その点を考慮して採点していただればと思う。

（委員）６月３日までに採点とコメントを出すが、審査が６月９日。質問への回答は、９日時点では来てないということか。

（事務局）次のプレゼンテーションのときに活かせるよう団体に送るものなので、委員会時点で返信はない。

（委員）あるといいと思った。

（委員）内容としてわからない、不明瞭な状態で評価しなければならないのか。

（事務局）書類審査は、申請書類からわかることで審査をしていただくことになる。

（委員）プレゼンに活かすのであれば、審査が終わってから、採択団体には質問、不採択団体にはコメントを書けばよいのでは。先に出す必要性があまりないように感じる。

（事務局）ご意見のとおりなので、採択団体への意見や質問は６月９日の委員会で、委員間で意見交換した後に質問、意見を取りまとめて団体に提供する。過去の例では、採点結果と一緒に質問や意見を提出し、事務局がまとめて委員会当日に提示していた。事前に意見を提出しない形になると、当日に各委員の意見を共有できなくなる。当日委員が話すことでよければ、事前提出は必要ないがどうするか。

（委員）それであれば、コメントはあっていいと思う。質問には回答がないと判断が難しいため、質問を先に出す必要はないと思う。書類審査に関してはコメントのみでよいのではないか。質問は書類審査後に出していただき、後日回答をもらうことにしたい。

（事務局）委員会での時点ではコメントをいただき、委員会で共有し、意見交換を行

う。委員会後に団体への質問をいただき、団体から回答を得る形で対応する。（委員了承）

（事務局）委員に共有するGoogleフォームや意見票は、修正したうえで提供する。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題（４）藤沢市市民活動推進計画改定の方向性について

〇事務局から、藤沢市市民活動推進計画改定の方向性について説明が行われた。

〇委員から（発言要旨）

（委員）フェーズ3の地域課題の共有と地域に根ざした団体の育成のところで、文中の主語が誰になるのか。現行では市民活動支援施設が主語となっているが、提案においても同様の理解でよいか。

（事務局）フェーズ3の地域課題の共有と地域に根ざした団体の育成において、主語は基本的には市と市民活動支援施設であり、市を中心として地域課題の解決に向けて進めていきたい考えている。

（委員）市民活動支援施設がすべての地域課題を把握しているわけではないと思ったので確認した。既に社会課題に対応した市民活動があるとは限らないところが多いと思うので、丁寧な掘り起こしなど、マッチングだけでない働きかけが必要だと感じている。この提案の中で最も効果的だと考えられるのは、フェーズ3の協働の推進である。連携の必要性を感じる団体が7割程度であることから、具体的なニーズが明確であり、積極的にマッチングを進めることで相乗効果が期待でき、市民活動の進化につながると思う。

また、フェーズ1について、広報活動の効果測定はどうだったのか。以前の取り組みの効果や今後可能性あるのであれば、取捨選択して進めてほしい。

（事務局）裾野を広げるための情報発信に関して、広報紙が藤沢市民に最も効果的だと考えられるため、広報紙と出したが、これまでのSNS、LINE、ラジオ、Eメールなどの手法も引き続き使っていく。情報発信において、多くの人々に訴求する形式やヒットする方法を常に見極めながら、わかりやすい情報発信に努める。今後も細かく配慮しながら情報発信したい。

（委員）どんな媒体がどう効果的だったか順次情報提供があるとこちらも助かる。

（委員）初めてこの方針を見た時、前回の推進計画から大きく変わらないと述べたが、これだと既存の枠組み内でしか考えられない気がする。中間見直し的なものにしかならない気がする。2019年と2025年では状況が大きく異なるはずだが、前回の計画の枠組み外の出来事がうまく取り込めていないと感じている。枠組みにとらわれているようであり、もっと大胆に、過去の7年間を踏まえつつ、今後の7年間を考える中で、分析と評価が重要で、それを踏まえることは次の計画作成には必須だが、そこに捉われると現在の推進計画と新しい基本施策があまり変わらないと思

う。限られた時間での議論だが、改定なので、皆さんの現場で感じることを大胆にいってもらいたい。
基本施策を見て感じるのは、市民活動団体に向けて言っており、市民活動を推進する際には市民活動団体だけにアプローチしても十分ではない。市民活動が多様化しているので、企業や地縁組織、学校などへのアプローチも必要。もっとそういう面を強調したり、あるいは若い世代へのアプローチももっと強調したい。あと、評価や理解促進はもっと強く出していきたい。
改定が意味を持つためには、諮問を受けて委員会で答申を出す必要があり、事務局の案はあまり大胆なものにはならないと思う。現場での経験を踏まえた意見や抜け落ちている視点をもっと言っていただきたい。
（委員）資料を見た最初の印象は中間見直しであると感じた。もう一歩踏み込みたい。毎年の市民活動に関する調査を振り返ると、認知度や参加度合いなどに微増が見られるものの、目覚ましい改善が得られているとは感じられない。
フェーズ１の情報発信について、情報が豊富であるものの、興味がある情報には注目し、関心がない情報はスルーする。ポスティングのチラシなどが典型的な例だが、情報はそのようなものだとして、やり方を考えることが必要。
計画は何を目指すかを確認しておく方がいい。参画を促進する際、興味関心のない人に興味を持ってもらうのか、あるいは、興味はあるが時間がない人に機会を提供するのか、情報の出し方やアプローチは違ってくる。具体的に考えれば、こうした点を意識した事業の組み立てが必要である。
団体支援についても、団体側は仲間を増やしたいとか、参加者を増やしたいとか、資金を増やしたいとかが、ある程度共通の課題だと思うが、市民にとってどのようなメリットや必要性があるのかを考えないと効果が出ない。そこを意識した事業の組み立てが必要。
協働推進は意味があるが、抽象的な言葉だけで書くと綺麗に見えるが、より具体的で現実に即した施策を打ち出せる組み立てにしていくといい。
（事務局）提案された資料９について、前回の計画の継続という側面もあり、事務局として悩んだところがあった。過去３年間において、ポストコロナやアフターコロナ、新しい生活様式、それに対する強靭性といった視点や、2030 年問題、藤沢市においても数年で人口はピークアウトする。あるいは、DX の進展、ライフスタイルや年齢構成の変化による担い手不足の深刻化などが、我々が直かれている現状との認識がある。
それを踏まえて、新しい計画を策定するために、事務局が作成した資料をたたき台として、皆様からご意見をいただきたい。
（委員）前提や背景に基づいて特定の方向性や強調すべき点が示された資料があれば、それがわかる資料がほしい。

（事務局）骨子案を作成する中で、強調してその辺のところは示していきたい。
（委員）市民活動に関するアンケート結果から、市民活動がわからないと出ていたので、若い世代への市民活動はこういうことという形で学校に入ったり、こういうのが市民活動であるという教育、啓発、そのような内容も必要だと思う。
情報が過多で選択に迷うホームページに戸惑っている人がおり、情報提供が一方通行であり、関心を持ってもらうための下地作り、特に若い世代を中心に、教育や機会提供をもう少し強調していただきたい。というのは、今の経済格差や時間的制約でタイパを求める若者もいて、価値観も生き方も変わっているが、いや、こういうことをやっている団体があるから社会が回っているのだという教育を提供していただくとよい。
（委員）私も共感する。学校現場ではSDGsの影響が大きく、あらゆる授業や活動にSDGｓ入り、それが当たり前になっている。市民活動と親和性が高いが、「市民活動」という言葉が使用されていないため、意識的に離れていると感じられる。学校現場に市民活動がアプローチすることは、世代構成の変化を含めて必要だと思うし、協調したい。
委員から、マッチングのところで、もう少し丁寧な掘り起こしをと発言があった。市民活動推進センターに来る人へのアプローチだけでは、十分でなくなっている。基本施策の中にアウトリーチという言葉が出てもいい。
（委員）行政の中には社会課題に関する情報が多く存在すると考えられる。しかし、市民活動につながるような提示ができていないと思う。各部署が抱える課題を市民団体と共有できるプラットフォームみたいなものとか、オンラインや対面でグルーピングできてもよい。協働はもっとクリエイティブでアクティブに枠作りをするのが役割と思うので、その辺も検討いただきたい。
（委員）そうすると、そのプラットフォームを作るには、その働きかける先も従来とは変わってくる。
（委員）学校教育は私もやりたいと思っていて、学校教育は絶対だと思っている。
それとは別に、市民活動推進計画の資料に、課題と今後の方向性が書いてあるので、それを基に見直し、計画を策定するのが筋だと思う。課題の洗い出しとその解決のための施策を作ればいい。2040年問題もあるし、市民の参加頻度が低い点も入っているので、ここをブラッシュアップしたものを作っていけばいい。
（委員）その通り。課題が引き続きのもの、変わったもの、新たに追加されたものがあるので、そのうえで、どう計画を作るかを考えないといけない。
市民活動支援施設の現場からはいかがか。
（委員）市民活動をやってみたい市民が対象なのか、市民活動団体が対象なのかによっても、施策の順番や重点が少し変わってくる。
フェーズ２の市民活動の場の確保において、ハード面だけでなくソフト面の充実も

重要だと考える。
フェーズ１では、まず市民活動に関心を持ってもらい、関心を持った人が継続できるようなサポートしていくことで、市民活動団体の発展や他団体との連携になり、持続可能な地域づくりにつながるので、初めの一歩だけでなく、続けやすいサポートも大事だと感じた。
（委員）今後、背景や前提もセットで１回確認できるようにしてほしいと思う。
（事務局）次回の委員会のときには、示していただいた課題や時代の背景から、新しいこの計画に繋がるというところを示す形で次の会議の資料を準備する。
（委員）前回の記録も参照できるといい。
（事務局）議事録の準備ができ次第、そちらもお示しさせていただく。
（委員）皆さん、委員それぞれの立場から見える状況があると思うので、ぜひ意見をお寄せいただきたい。特に企業のボランティアへの考え方はずいぶん変わってきている。地縁活動、地域の現場からも課題とか、ぜひ意見をいただきたい。
（委員）質問だが、過去の市民活動推進計画は５年や３年の期間で策定されてきたが、現在の計画は７年間である。計画の期間についても議論する必要があるのか。
（事務局）現在の計画は７年間であるが、新しい計画の期間については、この委員会で審議いただきたい。新しい計画の期間は特に申し上げていない。ただ、具体的な事業ではなく、方向性や指針を示す内容になっているため、短期間の計画ではない方が適切なのではないかと考えている。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題（５）その他

〇事務局から、次回の委員会の開催日について連絡があった。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

〇閉会

―終了―